

SHOW HEY シネマールーム

★★★★★

おとなの事情 スマホをのぞいたら

2021年/日本映画

配給：ソニー・ピクチャーズエンタテインメント/101分

2021(令和3)年1月11日鑑賞

TOHO シネマズ西宮OS

Data

監督：光野道夫

脚本：岡田恵和

原作：映画『Perfetti sconosciuti』

オリジナル脚本：パオロ・ジェノヴ

エッセ

出演：東山紀之／鈴木保奈美／常盤

貴子／益岡徹／田口浩正／

木南晴夏／淵上泰史／室龍

太／桜田ひより

👁️👁️ みどころ

情報化社会の今、中国語で「智能手机」とされるスマホには、個人情報のおとだけだけでなく、あらゆる秘密がいっぱい！他方、仲の良い夫婦には秘密などなし！そんな“キレイごと”から生まれたイタリア発の『おとなの事情』（16年）のリメイクは、日本版の本作がギネス世界記録の第19作目。

仲の良い3組の夫婦と1人の独身男の夕食会。そこで始まる「スマホ公開ゲーム」は建て前論からスタート。しかし、そこから次々と暴露される7人の男女それぞれの秘密と、人間の本性は？

この手の映画は結末が肝要。“人間不信”もごもっともだが、それでは大ヒットはムリ。さあ、本作の結末は？

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■世界で最も多くリメイク！その日本版は19作目！■□■

イタリア映画『おとなの事情』（16年）（『シネマ40』294頁）は、「世界で最も多くリメイクされた映画」としてギネス世界記録に認定されたそうだが、その日本版が第19作目として登場！一口にリメイクといっても、どこまで原作を生かすか、どこまで脚色するかは脚本家の自由。ちなみに、韓国版リメイクの『完璧な他人』（18年）と、フランス・ベルギー版リメイクの『ザ・ゲーム～赤裸々な宴～』（18年）は、かなりオリジナル版に忠実らしい。しかし、岡田恵和が脚本を書いた日本版は？

ちなみに、2月12日に公開される、ジュリアン・ムーアとミシェル・ウィリアムズが共演する『秘密への招待状』（19年）は、私の大好きなデンマークの女流監督、スザンネ・ピア監督の『アフター・ウェディング』（06年）（『シネマ16』63頁）のリメイクだが、男性2人が主人公だった原作は、女性2人の主人公に変更されている。これは、ロブ・ライナー監督の『最高の人生の見つけ方』（07年）（『シネマ20』329頁）をリメイクし

た日本版『最高の人生の見つけ方』（19年）が、男性2人の主人公から、吉永小百合と天海祐希という女性2人の主人公に変更されたのと同じだ（『シネマ46』336頁）。

もともと、独身男1人と3組の夫婦、計7名が出ずっぱりで展開するワンシチュエーションドラマである点は、イタリア版も日本版も同じ。イタリア版では、俳優たちになじみが薄かったが、日本版では私の大好きな女優・常盤貴子やかつての 트렌디女優・鈴木保奈美らが登場するので、その名演が楽しみだ。キャスティングのトップにクレジットされている独身男・小山三平役は東山紀之だが、それはなぜ？そんなキャスティングも含めて、本作は興味津々！

■□■自己紹介だけで、大波乱の予感が！■□■

イタリア版では、満月の夜に1組の夫婦が友人たちを招待した食事が舞台になっているが、本作の食事は年1回の定例のものらしい。その舞台になるのは、雇われ店長・向井幸治（淵上泰史）が経営するカフェレストラン。料理の腕はそれなりのものらしいが、可愛い妻・向井杏（木南晴夏）との会話を聞いていると、“お調子者”の幸治と、獣医をしている理論派（？）の杏との対比（違い）が面白い。

スクリーン上では、それに続いて、六甲隆（益岡徹）と六甲絵里（鈴木保奈美）の“セレブ夫婦”が食事会に出かける前の風景が描かれるが、年頃の1人娘を含めたその会話を聞いていると、この2人の関係はかなり微妙だ。それに続いて紹介されるのは、法律事務所でパラリーガルをしている園山零士（田口浩正）と、家計を支えるため、3人の子育てだけでなくパート勤務もしている園山薫（常盤貴子）の夫婦。この夫婦は、狭いアパートの中で夫の母親も同居しているし、夫の収入も多くはないから、何かと大変らしい。後に次々と暴露されるとおり、この両夫婦は一見仲の良い夫婦に見えているが、その内実は秘密だらけ・・・？最後に紹介されるのは、イケメンでスタイルもいいのに、なぜか独身の小山三平（東山紀之）。彼を紹介するシークエンスで、彼は手土産にしていた一升瓶を割ってしまう失態を犯していたが、ひょっとしてこの鈍くさがモテない原因？

黒澤明監督の『七人の侍』（54年）では、主演した三船敏郎の個性を突出させる中で、「7人の侍」それぞれの個性が描かれ、生き残る者と死んでいく者との区別も監督の判断で決められていた。しかし本作では、7人の男女の個性は違えど、そのウエイトの置き方は平等だ。また、『七人の侍』では、なぜ「7人の侍」が結成されることになったのかのストーリーが詳しく描かれていたが、本作導入部では食事会に向かおうとする3組の夫婦と1人の独身男それぞれの自己紹介をするだけの短いものに収めている。しかし、その自己紹介だけで、大波乱の予感が！

■□■スマホ公開のきっかけは？彼我の比較は？■□■

今だに私が愛用しているケータイは、今や絶滅危惧種のガラケーだが、スマホは“スマートフォン”の略。英語の「スマート」は、「スタイルがいい」ではなく、「賢い」という意味だ。中国語でも「智能手机」だから、その中には知恵がいっぱい詰まっている。近時

はお財布機能や決済機能までついているから、「もしスマホを失くしたら？」をテーマにした恐ろしい映画まで登場している。イタリア版で、3組の夫婦と1人の独身男が互いにスマホを公開するゲームを始めたきっかけは、楽しい会話の中で、「お互いが信用しているなら携帯を見せ合わない？」という提案が出されたことだった。そう言われると、「俺は嫌だ」と言いづらくなるのがミソだが、岡田恵和が脚本を書いた本作での「スマホ公開ゲーム」開始のきっかけは？

それは、新婚夫婦ながらチャラ男・幸治への不信任に悩む生真面目な杏が、食事が始まる前に、「夫婦って何？夫婦間に秘密ってあるの？」と言い出したこと。これは、金持ち夫婦と貧乏夫婦という違いこそあれ、両組とも杏には理想的な夫婦に見えていた六甲隆・絵里夫婦、園山零士・薫夫婦と自分たち夫婦を比較した結果、生まれてきた疑問だ。しかし、思春期の高校生や人生論に悩む大学生ならともかく、既に夫婦生活に入っている杏が、今さらそんな根本的な疑問を出し、その答えを求めること自体が本来は無理。しかも、「夫婦間に秘密がないなら食事会の間だけスマホをテーブルの上に置いて公開しましょう」と提案すること自体がバカげている。

それは、人間には性善説だけでなく、性悪説の面があるという本質を考えれば当然だ。しかし、ここでの杏の提案は、建て前としては正論。しかも、六甲隆・絵里夫婦も、園山零士・薫夫婦も、外見上は理想的な夫婦なのだから、それに反対する理由はないはず。そんなキレイごとがまかり通っている今の日本国では、それに反対する理由はなく、それに反対する奴はどこかやましいところがあるからだ、と勘繰られてしまうのがオチだ。本作で、その“やましいところ”をもっとも“自覚”していたのは零士。したがって、零士だけは最後までそんなゲームの開始に反対したが、多数決になると、どうしてもキレイごとだけの正論が勝利することに・・・。

■□■誰でもこの程度の秘密は！こりゃヤバイ！ええ、まさか？■□

テレビの年末年始番組にはろくなものがないから、私は古いDVDや映画ばかり見ていたが、DVDで『聖衣』（53年）を観ていると、そこには有名なイエス・キリストが「罪のない者だけが石を投げなさい」と人々を諭す物語が登場していた。コロナ騒動の下、外出自粛や会食自粛が叫ばれているのに、菅首相を始め、政治家たちが大人数で会食していたことが批判されていたが、1月15日には、会食嫌いで有名だった(?)石破茂元幹事長が、9名で、1人4万円のフグ会食をしていたことがすっぱ抜かれて謝罪に追い込まれた。そして、TVのアホバカバラエティでは、いろいろなコメンテーターがそれを批判していたが、ひょっとして、次にマスコミの餌食にされるのはそのコメンテーターかも？つまり、今でも「罪のない者だけが石を投げなさい」の教えは生きているわけだ。

思春期の男(=雄)の性欲が強いのは当然。そのため、若い男の下宿や部屋をのぞいてみれば、エロ本やエッチビデオ、さらに風俗店のチラシがあっても何ら不思議ではない。

まして、情報をすべて自由に操れるスマホの時代なら、その中にはあの手この手のその道の情報も・・・？零士がゲームの開始に反対したのは、そんなちょっとした秘密からだったらしい。しかし、その秘密は、妻に公開されると俺にはまずいが、独身男の小山なら笑い話で済ませるレベルのはず！そう考えた零士は、「ちょっとベランダでタバコを吸ってくる」と言い訳をして、小山とスマホの交換を交渉することに。これは、零士が法律事務所のパラリーガルとして、長年弁護士先生の下働きを忠実にこなしてきた経験から生み出された知恵らしい。人のいい(?)小山は、いやいやながらそれに応じてしまったが、さあ、その後の展開は？

本作中盤は、ここから次々と明らかにされていく“あの秘密”、“この秘密”に注目！その秘密の中には、前述したとおりの、零士のような笑い話で済ませられる軽いものもあるが、こりゃヤバイ！ええ、まさか！？と思う大変なものもあるので、さあお立合い！私は、TVドラマ『悪魔のKiss』(93年)でデビューした時の常盤貴子を見て大好きになったが、本作導入部で見せる彼女は、不細工な夫・園山零士とその母親と同居し2人の子育てに追われている主婦ながら、根が美人なだけにまだまだ十分イケている。そんな薫は、急いで家を出る時、スマホを見て一体何をしたの？それが暴露されるちょっとヤバイシークエンスで私は一瞬“何か”を期待したが、さて、その展開についての光野道夫監督の演出は？もっとも、それはちょっとしたサブストーリーで、メインは某人物のスマホに、ゲイのヒデ(室龍太)の通知が登場し、切々と愛の告白をするところから始まるのでそれに注目！ジェンダーフリーの時代、状況下、このストーリーは少しバカげているものの、「なるほど！」と思わせるインパクトがあるので、その展開に注目！ここまでの秘密が次々と暴露されれば、零士・薫夫婦は離婚の危機に・・・？

■□■こりゃおもしろい！なのに、なぜ星2つ？異議あり！■□■

私は毎週金曜日の夕刊各紙に載る新作映画についての新聞紙評を楽しみにしている。しかし、日経新聞の本作の評価は、「東山ら俳優の共演が見どころ」としながらも、星2つと評価が低かった。そのため危うく見逃すところだった私としては、この採点に異議あり！もともと顔も体形も不細工ながら個性派俳優として生きていかなければならない零士役の田口浩正の名演技は当然だが、本作唯一の独身男・小山三平役を演じた東山紀之は、誰がどう見ても正当な二枚目俳優。したがって、あの手この手で人間の本性を問い、その暴露合戦の面白さを追求する本作のような映画には東山は不向き！私はそう思っていたが、冒頭の自己紹介での一升瓶を割ってしまうシークエンスを見るだけで、この独身男はどこかへん！そんな小山は零士とのスマホ交換を余儀なくされたところから、アッと驚く秘密が暴露され、思わぬ展開に！

また、かつて“トレンディ女優”として名を鳴らした鈴木保奈美も、導入部からずっとセレブな売れっ子精神科医ぶりを見せているが、その本性は？さらに、冒頭から妻の杏のみならず、すべての観客が「この男は・・・？」とってしまう男・幸治は、どこまでい

い加減で、どんな秘密を？

世界で19番目のリメイクとはいえ、本作はメチャ面白い。なのに、なぜ星2つなの？異議あり！人間の多面性を考えなければならない法曹関係者はこりゃ必見！

■□■結末は喧嘩別れに？いやいや、あの日の絆はそれ以上！■□■

コロナ騒動とコロナ対策の展開を見ていると、人権意識が強い西欧諸国と、お上意識が強く右へならえ志向が強い日本とでは、全然違うことがよくわかる。それを、比較的うまくやっているのはやはりドイツだと私は思っているが、さて・・・？

オリジナル版『おとなの事情』はイタリア発だったが、イタリア人はとにかくおしゃべりで有名。『ソーシャル・ネットワーク』（10年）『シネマ26』（18頁）では、機関銃のように次から次へと繰り出されるセリフにビックリさせられたが、3組の夫婦と1人の独身男が堂に会した食事会を舞台にしたセリフ劇では、世界一おしゃべりな国民であるイタリア人がよく似合う。しかし、日本人は何事も控えめで口数も少ないから、そんな舞台劇のリメイクは不向き？そんな心配もあったが、本作の俳優陣にはそんな心配はご無用だった。六甲隆・絵里夫婦のセレブぶりとその崩壊ぶりが見ものなら、倦怠感いっぱいの中でもなんとか貧乏夫婦の絆をキープしてきた園山零士・薫夫婦の誤解だらけの大げんかも見もの。他方、新婚夫婦ながらいつ崩壊してもおかしくない向井幸治・杏夫婦は、幸治の浮気が暴露される中、当然離婚の方向に？そう思っていると・・・？

本作中盤で“あの秘密”、“この秘密”が次々と暴露され、「夫婦の絆など嘘八百！」という修羅場が続く中、結末は一体どうなるの？本作がよくできているのは、なぜ7人の男女の食事会が毎年開催されているのか？なぜ、この男女が互いにこれだけの信頼関係を持っているのか？等について、冒頭の、缶詰を開けるシーンによってそのヒントが示され、ラストでその種明かしがされること。1995年1月17日に起きた阪神淡路大震災と、2011年の3・11東日本大震災を体験した日本人なら、だれでもこの設定は心に沁みるはずだ。ちなみに、オリジナル版は満月の夕食会だったが、本作は皆既月食の夜の食事会だ。したがって、本作のラストは7人の男女がそんなお月様を見つめるシーンで終わるが、この時、1人1人の心の中によぎっているものは一体ナニ？できればそこに想いを致しながら、1人1人自己反省してみてはどうだろうか？

2021（令和3）年1月15日記